



Matachi's Vagina

HEPPOKODOU
PRESENTS

FOR ADULT ONLY



MATERIAL HANDLING

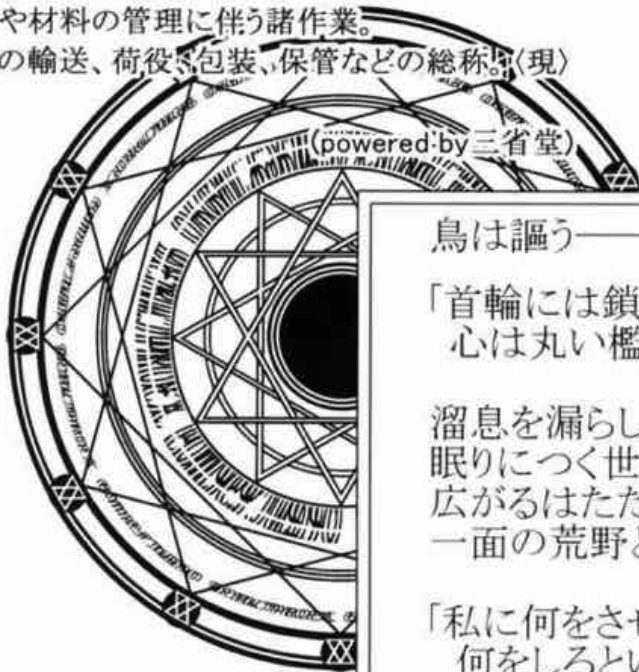
Vol.3

CONTENTS

イラスト	3
MATERIAL HANDLING	5
後書き	29

マテリアル-ハンドリング [material handling]

原料や材料の管理に伴う諸作業。
物品の輸送、荷役、包装、保管などの総称。(現)



鳥は謳う——

「首輪には鎖。手首にも鎖。
心は丸い檻の中」

溜息を漏らしながら
眠りにつく世界を見渡せば
広がるはただ
一面の荒野と色褪せた銀世界

「私に何をさせたいの？
何をしろというの？」

四方を囲む壁よりも、
自由を阻む鎖よりも、
胸元で光るマテリアが心を縛る

「こんなの——私じゃない！」

虚空へ——叫びは響く
——切なげな喘ぎの残滓を残して



ひん

あー

うあー

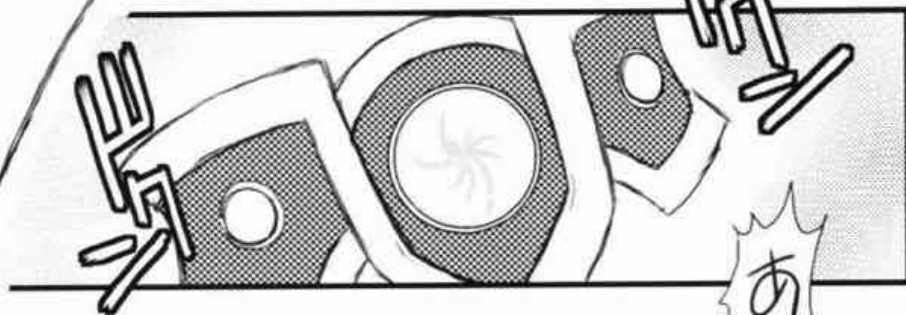
ひん

うあー

うあー

うあー

うあー

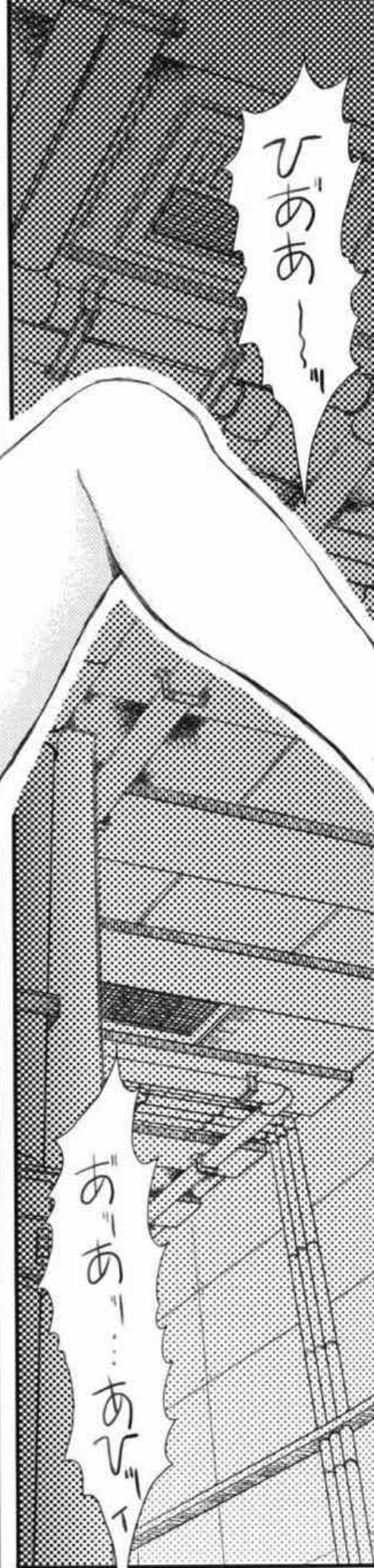


うあー

うあー

あー

あー



うあー

あー







8

被検体——死亡、しました……



やはり——

魔晄が必要です……
もっと——大量の……







あの後

私は

この部屋に
寝かされていた。

この忌々しい鎖につながれたまま



どうしてだろう……

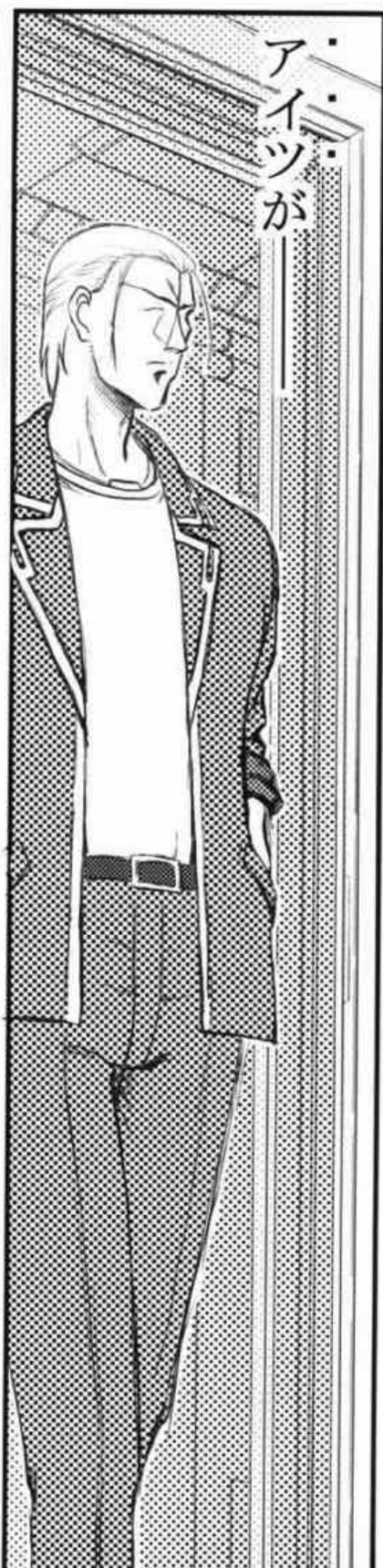
力が出ない……



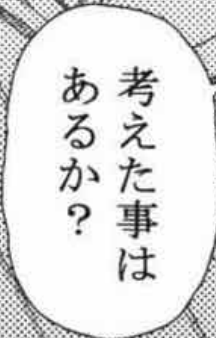
こんな鎖って
切れないなんて……



来た









『冬』が来る――

何…故？



気付いているだろう

この星の休眠と



ひあ？！

アツアツアツ

あぐら



ホニ



冬の訪れのことを――



わ、私には
関係な……!!

ちよつと
馬鹿ッ

どこ
触って…ッ!



や…あ

びん
ん

ん
ち
ん

古代種は、この『冬』を

びん
あん

あ
あ

冬眠すること
乗り越えたのだそうだ

あ♡

魔晄は光を失い——
古代種は滅び——

幸か不幸か——
それでもなお
我々は生きて
いる

ただ残念ながら——

彼らの真似を
することは出来ない

我々には——
別の方法が必要だ

魔晄に代わる方法が——

そう——

このマテリアのような





生み出すための



22











To be continued...

そもそも魔晄がどういったものなのか、それが知れた時点で誰かが思いを巡らすべきだった。

マテリアはどうしてあれほどの力を放つのか。
何故魔晄からあれほどの動力を得る事が出来るのか。

誰も考えなかった訳ではあるまい。
ただ目を閉ざしていただけだ。
力への盲目とはえてしてそうしたものだらう。

そもそもの原点がライフストリームといわれる星の生命にあるのであればそれが枯渇すれば、我々が立つ大地になにか起こりそうだ、くらいは子供でも考える。

今我々は、光を失ったマテリアを手に、
立ち枯れた木々と乾いた大地に立っている。
空から降る雪は、やがて大地を覆う。
突然の出来事に、我々はただ立ち尽くすばかりだ。

何もしなければ。

ある手段があったとする。
その手段が結果的に決め手となるかどうかはさておき、
その手段を行使出来るのであれば、
それを行使することは果たして人道的だろうか。

その手段が人道的でなかったとしたら。

無論、その手段を行使する。
問題を解決するために。

例えば、目の前に瀕死の人間がいるとして。
放っておくことは間違っているのだろうか。

別に間違えていない。
手を差し伸べることが正しいとか限らない。
しかし私は手を差し伸べるだろう。

それは私の前に横たわる問題であり——
問題を解決する欲求を、私は持っている。

——今。

私の手元には、マテリアがある。
ある経緯より手に入れた、特殊なマテリアだ。
このマテリアは、より強い魔晄があれば、その力を発揮することが出来る。
発揮されたその力こそ、道しるべたり得る。

より強い魔晄があれば。
より強い魔晄を有する者が、あれば。

……それを、探している。

◇あとながき◇

◆電SUKE

お買い上げ有難うございました。作画担当の電DUKEです。
へっぼこ堂の4冊目、3冊目のMATERIAL HANDLINGになります。
今回も遅れたり何だりで、印刷のサンライズ様に迷惑をかけてしまったり、
お昼をやきもきさせてしまったりしました。
サンライズ様にはお詫びと感謝を。
お昼には…今度晩飯ご馳走するから勘弁な(笑)
その分、力の入ったものになっているといいのですが。

Vol. 4は出来るだけ早い内に完成させたいと思っています。
その時もまた手に取っていただければ幸いです。

◆お昼

夏です。

じたばたしているうちに4冊目をお届けします。

ご購入、大変有難うございました。

3冊目がいまいちだったので、かなりがっかりしたので、

今回は頑張ったつもりです(結構手伝いましたw)

ストーリーも進んでいるので、個人的には嬉しいです。

まあでも、ストーリーなんてないようなものなので、

エロを楽しんで頂ければと思いますw

本当はvol3、vol4で1冊のつもりだったんですが……(苦笑)

次回はvol4で、またお会いしましょう～～。



毎度書いている事ですが……

原作担当のお昼、作画担当の電SUKE、
共に「FFVIIAC」はプレイしておりません。
はい、そうです、今もなお未プレイです。

と言うか、ACのティファは
好みじゃありませんので。ええ。
なーんか違うんだよなあ、
あのティファは…

ですからこの話は、
あくまでFFVII本編からの続き、
という事になります。

また、この話の前日譚を
HP「へっぼこ堂」にアップしています。
お昼の書いたSSです。
興味のある方は、どうかそちらも
読んでみて下さい。

…と言うか、さすがにそろそろ
続きを書いた方が良くないか？お昼…
俺が言えた義理ではないが…

今回入らなかったページの一部
Vol.4に2件用予定

◇奥付◇

「MATERIAL HANDLING」 Vol.3

発行者：へっぽこ堂

発行日：2008年8月17日

印刷所：サンライズ パブリケーション 様

E-mail：ohiru100@infoseek.jp

HP：http://www115.sakura.ne.jp/~heppokodou/

18歳未満の購入・閲覧を禁止します。

無断複製・無断転載・無断配布を禁止します。



*HEPPOKODOU PRESENTS
FOR ADULT ONLY*

[HTTP://WWW115.SAKURA.NE.JP/~HEPPOKODOU/](http://www115.sakura.ne.jp/~heppokodou/)